

都市と交通最終レポート

1 班 Guardian C1250071 阿部慈雄

A) 自分たちのチームにない解決策を提案し、参考になったのはオムライス班と FOODS 班であった。オムライス班は高齢者の交通事故を減らすために、不注意や道路環境をといた要因に着目し、どのような対策が可能かという課題を指摘しており、レインボーロードというアイデアが参考になりました。光らせることによる視覚的な工夫や音を用いた仕組みなどといった五感を刺激するアプローチは高齢者の注意喚起や道路環境改善に有効であると感じた。このような工夫は、利用者に行動の変化を自然に促す点で、実効性の高い交通安全政策であると感じた。FOODS 班については公共交通機関の利用者を増やすためにはどうすればよいかという課題であり自分たちの班と問題意識が近い内容であった。そして自分たちの班と違うところは仮想通貨を利用するという点だ。FOODS 班がだした仮想通貨を使うというアイデアは、利用者や商店街にも利益が発生する Win-Win な関係を築くことで公共交通機関（主にバス）の利用が促進されるという点が新たな認識を得ることができた。一方で財源の確保や仮想通貨利用可能な場所の取り決めや浸透しにくいなどの課題も考えられるが、公共交通を多面的に捉える重要性も学ぶことができた。

B) 地方都市における交通の問題を総合的に解決するための自分の意見

地方都市における交通の問題は、交通事故の多発や公共交通機関の利用低下など、個別の課題として捉えられることが多い。しかし、授業のや各班の発表を通して、それらの問題は相互に関連し合い、自動車中心の生活構造の中で連鎖的に生じていることがわかった。高齢者や子供の交通事故、免許返納が進まない現状はいずれも、地方都市に共通する構造的な課題であると考えられる。

A で取り上げた他チームの発表は、こうした交通問題を多角的に捉える重要性を明確に示していた。オムライス班からの発表からは、交通安全対策を考えるうえで、人の感覚や行動特性に配慮する視点が不可欠であることを学んだ。道路標識やルールは整備されていても、それが必ずしもすべての人に十分に伝わっているとは限らない。特に高齢者や子供にとっては、複雑な制度や文章による注意喚起を理解することが難しい可能性があり、その結果として事故につながる可能性がある。光や音を用いた工夫は、こうした課題に対し、危険を直感的に認識できる手段として有効であると考えられる。このことから、交通整備は単にインフラが整備されていればよいのではなく、利用者の立場に立ち、誰にとってもわかりやすく安全に実感できる構造であることが示唆される。

また、FOODS 班の発表は、公共交通機関を経済的な視線から捉えていた点で特に印象的であった。地方都市では公共交通の利用者減少が問題となっているが、その背景には利便性の低下だけでなく、利用する動機や価値を感じにくい状況があると考えられる。FOODS 班は、公共交通の利用が地域内での消費活動や人の交流にもつながる仕組みを構築することで、交通そのものが地域経済を支える役割を果たし得ることを示していた。公共交通を利用することで地域に利益が還元される構造が可視化されれば、住民の意識は単なる移動手段として

の利用から、地域を支える行動としての利用へと変化する可能性がある。このような視点は、公共交通の持続性を考える上で重要である。

これらの発表を踏まえ、自分たちのチームの提案が抱えていた課題も明確になった。自分たちの班では、公共交通機関の利便性を高めることによって自動車依存を減らすという方向性を示していたが、それだけでは利用者の行動変容を十分に引き起こせない可能性がある。オムライス班の発表からは、移動手段としての利便性が向上しても、安全性が実感できなければ利用は広がらないことが示された。また、FOODS 班の発表からは、公共交通を利用することに対する動機づけがなければ、利便性の改善も一時的な効果にとどまるという点が明らかになった。これらを踏まえると、自分たちの提案は、単に交通サービスを効率化するものではなく、安全性の向上と利用価値の可視化を同時に組み込む必要があると考えられる。公共交通を「使える存在」にするだけでなく、「使いたい存在」へと転換することが、地方都市における交通問題の解決には不可欠である。

以上を踏まえると、地方都市における交通問題を総合的に解決するためには、公共交通機関の利便性を出発点としつつ、安全性や利用者の心理、さらには地域経済との関係までを一体として捉える必要があると考える。利便性のみを高める施策は短期的な効果にとどまりやすく、安全への不安や利用動機の不足が残れば、持続的な利用には結びつかない。したがって、誰にとってもわかりやすく安全を実感できる交通環境を整えると同時に、公共交通を利用することが地域全体の利益につながる構造を構築することが重要である。このように、交通を単なる移動手段としてではなく、生活や地域を支える基盤として位置づけなおすこそが、地方都市における交通問題の総合的な解決につながると結論付けられる。